

現行の「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針[平成31年度～令和7年度]」の要旨

<基本方針の骨子>

- 1 時代や社会の変化に柔軟に対応できる高等学校教育の推進
- 2 今後の生徒減少期に対応した魅力と活力にあふれる高等学校づくり

1 時代や社会の変化に柔軟に対応できる高等学校教育の推進

(1) 新たな学びに向けた取組

① これからの時代に求められる教育の推進

確かな学力の育成、21世紀型能力の育成、グローバル人材の育成、ICTを活用した教育の推進

・ 未来を拓く学力向上事業

・ 未来を創造する「思考力、判断力、表現力」育成事業

・ 鳥取発！高校生グローバルチャレンジ事業

・ グローバルリーダーズキャンパス

・ ICT活用推進事業

(主な取組)

- ・ 理数課題研究等発表会など学校を超えた県全体の学力向上に繋げる取り組み
- ・ 著名な研究者等を講師に招き教員・生徒に最先端の探究学習のハイレベル化を図る講座
- ・ グローバル化に対応できるよう留学などの海外体験を通じて国際社会で活躍する人材を育成
- ・ スタンフォード大学と連携した通信教育プログラム
- ・ モデル校における一人一台のタブレット端末利用

② 共生社会の形成に向けた教育の推進

高校での課題解決に向けた効果的なチーム支援の展開を研究、生徒の自己理解・他者理解の深化、一人一人の個性と能力を大切にす共生社会の形成に向けた教育の展開

特別支援教育充実事業

(主な取組)

- ・ 平成30年度から通級による指導を教育課程内に位置付け実施（平成30年2校、令和元年3校、令和2年4校で実施）
- ・ 障がい等のある生徒の自己理解と他者理解を深める講演会や研修等の取組
- ・ 手話教育普及支援員を授業へ派遣する取組

(2) 本県の地域や産業をえる人材の育成

①社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の充実

主体的に進路を選択する態度の育成、最前線で活躍する研究者など「本物」に触れる教育の充実、夢や希望に向かって果敢にチャレンジする生徒の育成 等

ふるさとキャリア教育充実事業

(主な取組)

- ・全ての学校で卒業生や地元企業勤務者を招いての講演やワークショップ
- ・卒業生等が働く企業を訪問し、職業観や生き方を学ぶ
- ・キャリア教育推進協力企業認定制度(216社/令和2年8月末時点)

②地域と連携した教育の推進

鳥取県を内外から支える人材と、グローバル社会で活躍すると同時に生まれ育った地域の中核としても活躍できる人材の育成

・地域等と連携した土曜活用事業

・コミュニティスクールの設置

(主な取組)

- ・土曜日等を活用して、学校と地域が連携した多様な学習環境を創出(ふるさと鳥取学習講座の実施、専門高校生生産品販売実習、地元イベントへの参加等)
- ・社会に開かれた教育課程を実現するため、全県立高校にコミュニティスクールを導入

2 今後の生徒減少期に対応した魅力と活力にあふれる高等学校づくり

(1) 学校の特色や魅力づくり

「単位制」の導入、自校で学習できない内容を他校で学習するなどの学校間連携の推進 等

(主な取組)

単位制の導入により生徒個々の進路に応じた教育過程を編成（下表は導入状況）

導入年度	学校名	学科	1年次学級数
H11	倉吉西	普通学科	3
H15	鳥取中央育英	普通学科	4
H15	境	普通学科	5
H30	倉吉東	普通学科	5
H30	米子東	普通学科	8

導入年度	学校名	学科	1年次学級数
H31	鳥取東	普通学科 理数学科	7
H31	米子西	普通学科	7
R2	八頭	普通学科	6
R3	鳥取商業	商業学科	4

②地域との連携等による学校の特色や魅力づくり

県外からも目標を持った生徒を受入れる取組の推進、地域と高校が相互の資源等を教育活動の中で最大限に活用する取組の展開

・とっとり高校魅力化推進事業

・県立高校裁量予算学校独自事業

(主な取組)

- ・県外生徒の募集イベントを通じて県外生徒の受入も進める（令和2年度入学：倉吉農業高校4名、日野高校3名）ことで多様性が生まれ、県内生徒に刺激を与える
- ・地域と連携した教育活動として鳥取東高校「鳥取学」、青谷高校「青谷学」、高校と自治体が協約（鳥取中央育英高校×北栄町、米子西高校×米子市）するなど生徒の探究活動を促進

(2) 各課程・学科の在り方

①普通学科

キャリア教育を充実させ社会や職業に対する意識を醸成する教育の実施、進学校への「単位制」の導入 等

普通科高校ふるさと学びプロジェクト事業

(主な取組)

- ・産業界、高等教育機関、大学生（卒業生）、高等学校の関係者による検討会を実施し、生徒、企業、学校のニーズに合ったプログラムを検討する
- ・地元企業と連携して、インターンシップを実施する

②専門学科（職業教育を主とする学科）

産業界のニーズに応じた人材の育成、産業構造を見据えた学科への改編やコース制の導入 等

・キャリア発達支援事業

・県立高校裁量予算学校独自事業

（主な取組）

- ・地域産業界の社会人講師等との連携により、資格取得のチャレンジ、ものづくりに係る競技会等への参加支援
- ・地元企業においてより実践的な職業知識や技能を習得する長期インターンシップを実施
- ・地元の菓子工房やレストランと連携し、地元食材を使用した菓子などの商品開発を実施

③総合科目

生徒の進路希望を明確にするためのガイダンス機能の充実、多様な学びを提供するための ICT を活用した遠隔教育の導入の検討 等

学びの文化祭の開催

（主な取組）

- ・各系列、教科における ICT 機器の活用による授業改革やアクティブ・ラーニング手法の研究、その成果を授業公開等により他校にも普及・還元

④定時制・通信制

基礎・基本の定着や発展的学習の充実を図るための、体験型学習の充実や ICT を活用した有効な学習モデルの構築 等

定通充実事業

（主な取組）

- ・大学生ボランティアなど授業支援の充実による基礎学力の育成
- ・ジオパーク巡りや伝統文化体験、スキー実習等を通じた体験型の学習機会の創出

（3）標準的な学校の規模と配置

①標準的な学校の規模

1 学年 4 ～ 8 学級程度を標準規模としつつ、入学者数、地域の産業や人口等の状況を考慮し、総合的に学校規模を決定

＜全日制県立高校の学級規模と学校数の推移＞

入学年度 学級数	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度
8 学級	2 校	1 校	1 校	0 校
7 学級	3 校	4 校	3 校	4 校
6 学級	0 校	0 校	1 校	1 校
5 学級	6 校	6 校	6 校	5 校
4 学級	5 校	5 校	5 校	6 校
3 学級	5 校	5 校	5 校	5 校
2 学級	1 校	1 校	1 校	1 校

②生徒数の減少への対応

生徒数の減少に対しては、原則として学級減で対応

※平成 31 年度～令和 7 年度の間には全県でおよそ 10 学級規模の募集定員減が必要と推計

＜小規模校の在り方に関する基準＞

- ・ 1 学年 3 学級の学校：2 年連続して募集定員の $\frac{2}{3}$ に満たない場合、原則 1 学級減
- ・ 1 学年 2 学級の学校：2 年連続して募集定員の $\frac{1}{2}$ に満たない場合、分校化や再編なども含めて検討
- ・ 日野高校の在り方を検討中

③私立高等学校との連携と協力

本県教育の質の向上に向けた学力向上施策や教職員研修等の連携・協力 等
→別添のとおり

(4) 魅力と活力ある学校づくりを推進するための体制整備

教育的知見と高いマネジメント力を備えた管理職の育成、教員とは異なる専門性や経験を有する人材の積極的登用、これらの人材と教員が連携して課題解決に取り組むことのできるチーム体制の整備。

教職員派遣研修費

(主な取組)

- ・ 学校の管理運営、特色ある教育活動の推進 … 兵庫教育大学大学院 (2 年)
- ・ スクール・マネジメント等中央研修講座への派遣 (校長 (5 日間 2 名)、副校長、教頭 (5 日間 2 名)、中堅教員等 (12 日間 1 名) … 教職員支援機構
- ・ スクール・マネジメント等島根大学への派遣 (中堅教員 (20 日間 2 名))
… 島根大学教育学部

今後の高校教育の在り方を検討する会（令和元年度開催）における主な意見について

令和2年9月4日 総合教育推進課（高等学校課）

1 今後の高校教育の在り方を検討する会について

(1) 目的・概要

少子化の一層の深刻化により教育環境が大きく変化することを踏まえ、県内の高等学校の教育の充実及び実施体制の確保に向けて、いわゆる公私比率の問題も含めて県立及び私立高等学校の今後の在り方について、県立・私立の枠を越えて検討を行った。

(2) 開催実績（3回）

第1回 令和1年6月3日 議題「検討の方向性、視点について」

第2回 令和1年11月18日 議題「生徒数減少による高校教育への影響及びその対応等について」

第3回 令和2年2月18日 議題「県内の高等学校の10年後の姿、特別支援等のための公立・私立協同の取組について」

(3) 委員構成（16名）

学識経験者、県立高等学校長、県立高等学校・公立中学校・私立高等学校・私立中学校各PTA会長、公立中学校長、私立高等学校・私立中学校関係者、市町村教育委員会教育長、県教育委員会教育次長、県子育て・人財局長

2 会議における主な意見

○ 学校規模等について

- ・生徒数減少により学校やクラスの規模が小さくなった場合、それぞれの生徒に目が行き届く、あるいは保護者との連携も取り易いというメリットが考えられる一方、子どもたちの人間関係が狭まり価値観が広がらないという負の側面も考えられる。
- ・生徒数の減少に対して統廃合で学校規模を維持するのではなく、小さくても様々な特色のある学校をたくさん作って生徒に選択肢を与えることが望ましい。
- ・今後、国のGIGAスクール構想などにより、タブレット端末等を使った課題解決学習などが主流になってきた時に、学校数や学校規模を今の学級基準を基に考えるのではなく、どのような集団規模がふさわしいのかを議論していくことが必要。
- ・人材の育成という観点から農林水産や情報の学科は県立で一定程度配置し、私立はそれぞれの特徴を持ってやっていくといった、鳥取県の高校教育全体のデザインの中で考えていくべき。
- ・10年後のイメージとして、鳥取県の小回りが効く利点を活かし、東・中・西部の地区ごとに果たすべき役割や、専門性を持った学科を備えた学校群を作り、生徒が自由に学んで回れるようなことができればよい。

○ 公私の連携について

- ・人口最少の鳥取県では、公立だ、私立だと言わず、一緒になって高校教育の課題に取り組むべき。
- ・これからは、個々の生徒の学力や事情に応じた教育指導がより求められることから、各学校で自己完結させるよりも、他の学校、地域との連携などが必須になると思う。
- ・県立私立共通の教育課題である、特別支援や不登校などに関する対策について、県立と私立が協同して取り組んではどうか。

○ 公私比率について

- ・子どもの数全体が縮小していく中で公私比率を守っていても双方が縮小していくだけである。これからは、公私比率にとらわれず、お互いが特色を出し、競い合っていくべき。
- ・私立高等学校の就学支援金制度が拡充される中、経済的な理由で公立私立の選択することがないような状況になれば、各学校の特色により生徒が集まってくると考えられることから、公私比率は必要ないのではないか。
- ・県立高校の募集定員は、公私比率も踏まえながら一定程度の競争倍率を考慮していることから、ある程度の公私比率の目安が必要。
- ・県内の中学卒業生に対する県立・私立の募集総枠の割合を大まかに設定し、県外から募集する生徒の部分についてはそれぞれの経営努力の問題であり、枠外とすれば良い。

《参考》 委員名簿

区分		氏名	摘要
学識経験者		多田 憲一郎	鳥取大学地域学部教授
学校関係者	県立高等学校長	小川 勝	青谷高等学校校長
		御舩 齋紀	倉吉東高等学校校長
		永野 智之	米子南高等学校校長
	県立高等学校PTA会長	岡田 頼昭	鳥取湖陵高等学校PTA会長
	公立中学校長	足立 祥一	米子市立湊山中学校校長
	公立中学校PTA会長	福本 希美香	鳥取県PTA協議会理事
	私立高等学校長又は理事長	野田 修	学校法人鳥取家政学園理事長
		岩本 恭昌	学校法人松柏学院理事長
		生田 雅彦	学校法人翔英学園理事長
	私立高等学校PTA会長	近藤 香織	米子松蔭高等学校松萌会会長
私立中学校長又は理事長	横井 司朗	学校法人鶏鳴学園理事長	
私立中学校PTA会長	藤井 貞宣	湯梨浜学園梨友会会長	
行政関係者	市町村教育委員会	小椋 博幸	倉吉市教育委員会教育長
	県教育委員会	足羽 英樹	教育委員会事務局教育次長
	子育て・人財局	木本 美喜	局長

各高校における現状の課題等について

令和 2 年 9 月 4 日
高等学校 課

学科区分	概 要
普通学科 (全日制)	<p>【指導に関する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1・2 年次生には、総合的な探究の時間を基軸とした新テスト対応を図るとともに、思考力・判断力・表現力を育成し主体性を持ち協働して学ぶ態度を育成していく必要がある。 ・ 学校の教育力だけでなく、生徒を積極的に地域に出し、地域と連携して教育力を底上げすることが必要だが、その必要性について教員の理解は不十分。 ・ 総合的な学習の時間中での探究活動は 4 年を経過したが、調べ学習に終わるものも多く、しっかりと生徒の主体性を育成する必要があり、地域との連携を深め、地域に関する探究活動を充実させる必要がある。 ・ 総合的な学習の時間などを通じて引き出した生徒の学びへの意欲を、基礎学力の定着にどうつなげるかが課題。 ・ 研修旅行や姉妹校交流事業を通して主体的な自己表現の向上を図っているが、必要な言語能力や自己表現力が十分に身につけさせているといえない。 ・ アクティブ・ラーニングの手法や ICT を取り入れた授業改善等、授業の魅力化について全教員が取り組むことが必要。 ・ 家庭で ICT 機器を利用させた取組を実施しているが、生徒を自立した学習者として育てることが不十分であると感じている。 <p>【生徒の現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の進路が多様化する中、明確な目標を持たないため学力向上に励めない下位層の生徒数が増加している。 ・ 計画的に家庭学習を行っている生徒の割合が低く、いかに習慣づけるかが課題。 <p>【教員の在り方に関する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒を成果（偏差値・合格大学・部活の実績等）でしか評価しない教員がいる。 ・ 教育を進学や就職、部活動の結果を出すものと思っている教員がおり、人間的な成長まで追い求めていない雰囲気があるのではないかと。 ・ 教員自体の多忙感、義務感が先に立ち、日々の業務をこなすだけになってしまい中長期ビジョンを掲げて「学校を良くしたい、生徒を伸ばしたい」という前向きな発想がしにくい。 <p>【制度・施策に関する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の魅力はある程度の生徒数がい生まれるものであって、また、1 学年 2 学級でも 5 学級でも基本的には同じことをしなくてはならず、小さい規模ではギリ貧になってしまう可能性がある。 ・ 学校の特色として部活動を打ち出す学校もあると思うが、現行の部活動のガイドラインでは縛りが強いいため、もっと現場ごとに柔軟に運用できるルールであって欲しい。 ・ 入学者数の確保が課題の中、学生寮もない状況で県外からの生徒募集にどこまで前向きに取り組むか悩ましい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校で学ぶ力のない生徒をどうするか。各地区に大変ではあるがそのような苦しい状況の生徒を対象とした高校が必要と考える。

学科区分	概 要
	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲のない生徒をどうするか。少人数等できめ細やかな指導を行っている高校で受けるなどして、自己肯定感を高めるなどの努力が必要ではないか。
専門学科等	<p>【指導に関する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と産業界のネットワークが固定化され、担当教員のみが関係連携先と繋がっている状態であり改善が必要。 ・目先の「ものづくり」のみではなく、教員が Society5.0 に向けた人材育成の視点を持って教育活動に当たっていくために、課題研究をいかに充実させるかを検討しなければならない。 ・学科、教科間で連携して資格取得の前提となる基礎学力の定着と専門教科への関心をより高めるためとともに、学習成果を地域に発信していくことが必要。 ・地域資源を活用し、専門教育の深化を図り、学校の魅力化・特色化へつなげる取組の検討及び情報発信方法の工夫が必要。 ・生徒自身が主体的に考え行動し、問題発見及び解決を行う実践力の育成が課題。 ・教育活動が地域に還元できているかどうか、評価の実施方法の内容について検討する必要がある。 ・多くの場面で ICT を活用した授業に取り組み、その場での学習意欲や基礎学力の向上につながった部分もあるが、家庭での学習状況等から全体としては継続して主体的に学ぼうとする学習意欲を喚起することは難しい。 <p>【生徒の現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の専門高校への理解が弱い。子ども達の大半は、まず普通科に行ってから進路を考える傾向が強い。 ・年々、学力差が開いてきており、結局、成績下位の生徒に注力した授業となり成績上位者の能力伸長が十分にできていない。 ・生徒の専門性をより高めたいが、特別な支援が必要な生徒も増加しており、どう向き合っていくかが悩み。 ・土木系人材の求人が大変多いにも関わらず、別業種への就職者が多い。 <p>【制度・施策に関する課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者数の確保が優先課題として捉えられており、学校の本来の在り方とのミスマッチが懸念される。 ・生徒減の中で学校の特色を出すことが重視されているが、本来は未来の社会で真に必要と考えられ、社会の変化に対応できる学校学科が必要と考える。 ・専門高校の教員の平均年齢が上がっており、また人員も減っていることから以前出来ていたことができなくなっている。 ・特別な支援が必要な生徒が増加してきており、生徒を社会に送り出せるための教育を行うためにも少人数学級にすることが必要。 ・普通科改革により、普通学科が総合学科のようなことをやり始めると、総合学科らしさが示しにくくなる。 ・一人一人の対応を考えると、今の生徒数で限界。(定時・通信制) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員にも得意、不得意の分野がある中で、その見極めをするのが管理職であって欲しい。 ・多くの卒業生が事務系業種に向かう傾向にあるが、近い将来オートメーション化や大卒以上の求人に移行してく話もあり懸念している。 ・外国人材の受入が進めば、福祉科にも影響ができるのではないかと懸念している。

出典：高等学校長からの聞き取り、若手教員からのアンケート、学校訪問記録、重点校報告書

今後の普通科高校の在り方について

令和2年9月4日
高等学校課

1 今後の普通学科の在り方

- ふるさとキャリア教育を充実させ、将来への目的意識を持たせるとともに、社会や職業に対する意識を醸成する教育を実施していく。
- 倉吉東高校における国際バカロレアの導入、米子東高校におけるスーパーサイエンスハイスクール、鳥取西高校におけるスーパーグローバルハイスクールのほか、鳥取東高校の鳥取学、鳥取中央育英高校の地域探究の時間、倉吉西高校のチャレンジグループ活動など、生徒自身が主体性をもって多様な人々と協働しながら、地域や学習の中から自ら疑問に感じたことなど課題の発見、深掘りをし、課題解決を行うとともに、その成果をコンクール等でプレゼンテーションができるような能力を身に付けさせるように探究学習を充実させていく。
- 普通科高校の取組については、別紙のとおり。

2 国における普通科高校の在り方の見直しについて

(1)背景

- 平成31年4月に当時の柴山文部科学大臣が中央教育審議会に「新しい時代の初等中等教育の在り方について」諮問。
- 検討事項の一つである「新時代に対応した高等学校教育の在り方」の中で、
 - ・生徒の学習意欲を喚起し能力を最大限伸ばすための普通科改革など学科の在り方
 - ・いわゆる文系・理系の類型にかかわらず学習指導要領に定められた様々な科目をバランスよく学ぶことや、STEAM教育(*)の推進が具体項目として挙げられたことから、「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ」が設置され検討が進められているところ。

* STEAM教育：Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics 等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育

(2)現在の検討状況

高校生の約7割が在籍する普通科においても、一斉的・画一的な学びではなく、生徒の能力や興味・関心等を踏まえた学びを提供するという観点から、各学校の特色・魅力化の取組に応じて、「普通教育を主とする学科」として普通科のほかに、以下のような学科を検討中。

○学際融合学科（仮称）

SDGsの実現やSociety. 5.0における現代的な諸課題への対応を図るために、学際科学的な学びに重点的に取り組む学科

…現代的な諸課題等に対応した領域横断的な教育（STEAM教育を含む）を系統的に実施す

ることや、高等教育機関や国際機関等との協働体制の構築を要件化

○地域探究学科（仮称）

地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、地域社会が抱える課題の解決に向けた学びに重点的に取り組む学科

…地域課題等をテーマとした探究的な学びを3年間系統的に実施することや、地元自治体・企業等とコンソーシアムを構築すること、高校と地域を繋ぐコーディネーターを配置することなどを要件化

○その他普通教育として求められる教育内容であって特色・魅力ある教育を実現すると認められる学科

鳥取県立高校全日制普通学科 10校の取組状況

学校名	重点項目	学校の現状、特色等	重点項目を踏まえた特色化・魅力化の取組
鳥取東 高校	◆大学進学 ◆英語教育	○2年次から進路希望により普通 科文系・理系と理数科に分かれ て進路実現を目指す。県内唯一 の理数科設置校。 ○生徒の主体的な進路意識の高揚 を図り、地域の実情を理解する ことで、鳥取県の将来を支える という自覚を育むことを目的と した「鳥取学」を平成22年度 より実施。	■4年制大学を中心とした生徒の進 路希望を実現する教育課程 ■他の普通科高校にはない特色ある 教育活動の推進 →理数科を中心とした理数教育の 充実 →グローバル化、高大接続改革に 対応したディベート活動をはじ めとする英語教育の充実
鳥取西 高校	◆大学進学 ◆グローバル 人材育成	○難関大学等、高い進路目標の実 現に一定の成果。 ○文部科学省のスーパーグローバ ルハイスクール（SGH）の指 定校としてグローバル人材の育 成に成果（平成27年度～令和 元年度）。	■4年制大学など生徒の多様な進路 希望を実現する教育課程 →教科や課題研究の探究活動を通 じて、生徒の思考力・判断力・表 現力・情報活用能力などを育成 →教科横断的な授業の研究・実践 ■SGH事業で研究開発したプログ ラムを通してのグローバル人材の 育成 →知的総合力を身につけ、地域や 世界のコミュニティに主体的に 参画できる人材の育成
岩美高校	◆基礎学力向 上 ◆地域連携	○2年次から「進学類型」「観光・ スポーツ類型」「福祉類型」の3 類型に分かれて学習。 ○「山陰海岸ジオパーク」を扱う 学校設定科目を設置するなど、 地域連携・探究活動を推進。 ○地域連携・課題探究活動「イワ ツツ・ミッション」の持ち方につ いて地域のニーズに沿ったテ ーマの設定。 ○福祉類型のカリキュラムに位置 づけるなど手話学習を推進。	■基礎学力の定着と進路保障 →授業の中での学び直しや課外学 習プログラムを通して、多様な 生徒の志望を大切に学習プ ログラムを提供 ■令和2年度から学校設定科目「実 践数学計算」、「英語基礎」を設 置し、リスタート学習を推進 ■地域に貢献できる学校であるとな らば、地域の担い手を育成 ■学校活動（教科指導、部活動、特別 活動）を通じて、地域と連携し、貢

学校名	重点項目	学校の現状、特色等	重点項目を踏まえた特色化・魅力化の取組
			<p>献する活動の実施による自己有用感、コミュニケーション力を育成</p>
八頭高校	<p>◆大学進学 ◆スポーツ・文化芸術活動 ◆県外生徒募集</p>	<p>○令和2年度から類型制に移行。2年次から進路志望や適性をもとに探究、総合、看護医療、体育の各類型に分かれる。</p> <p>○中学校と授業連携により高校の理解を深めるとともに、進学意欲の向上にも寄与。</p> <p>○ホッケー、剣道をはじめとする部活動でも、全国大会で上位となる好成績を収めている。</p>	<p>■4年制大学への進学など生徒の多様な進路希望を実現する教育課程 →鳥取環境大学教員等と連携した「探究ゼミ」の実施</p> <p>■充実した設備を生かしたスポーツ活動の振興</p> <p>■ホッケー部・剣道部・柔道部における県外生徒の募集</p>
倉吉東高校	<p>◆大学進学 ◆英語教育 ◆ICT活用教育</p>	<p>○2年生から文系・理系の選択を行い、「文科・理科 学術類型(クラス)」と「文科・理科 教養類型(クラス)」に分かれ、学術類型(クラス)では難関大学(学部)合格を目指す。</p> <p>○従来から難関大学等、進路目標の実現に一定の成果。</p> <p>○令和元年度から生徒所有の端末(スマートフォン等)を授業で用いるICT活用授業を実施。</p>	<p>■4年制大学を中心とした生徒の進路希望を実現する教育課程</p> <p>■コミュニケーション能力と課題発見・解決力を高める国際理解教育の推進 →国際バカロレアの認定校を目指す →国外の高校生を交えた「探究活動成果発表会」を開催 →世界で活躍する企業人の英語による講義の実施</p> <p>■ICT活用教育のモデル校として、各種アプリ、教育支援システムを活用</p>
倉吉西高校	<p>◆大学進学 ◆キャリア教育</p>	<p>○生徒のほとんどは大学や専門学校等上級学校への進学を希望。</p> <p>○キャリア教育の一環として、フィールドワークを交えた探究活動「チャレンジグループ活動」を実施。</p>	<p>■4年制大学を中心とした生徒の進路希望を実現する教育課程 →パイオニアホームを中心とした学習リーダー養成</p> <p>■チャレンジグループ活動などのキャリア教育やふるさと教育 →自ら興味のある学問分野に関して自分自身でテーマを設定して探求を進める「チャレン</p>

学校名	重点項目	学校の現状、特色等	重点項目を踏まえた特色化・魅力化の取組
			ジグループ活動」を実施。
鳥取中央育英高校	<p>◆スポーツ・文化芸術活動</p> <p>◆県外生徒募集</p>	<p>○普通コースと体育コースを併設する単位制の高校。人文系、理数系、体育系など多様な科目群を設置しており、進路希望に応じた選択が可能。</p> <p>○学生寮を有しており、県外生徒の募集も実施。</p> <p>○平成 27 年度から北栄町と連携した「地域探究の時間」の取組を実施。</p>	<p>■競技力向上を図り、トップアスリートを養成</p> <p>■学生寮を生かした県外生徒の募集 →恵まれた練習環境、トップアスリート養成のための研修等の実施</p> <p>■「地域探究の時間」の成果発表会として、県内外の高校生を招き、成果発表会「地域創造ハイスクールサミット」を開催</p>
米子東高校	<p>◆大学進学</p> <p>◆英語教育</p>	<p>○生徒のあらゆる進学希望に対応した普通コースと、理数系を重視し、医・歯・薬学部及び難関大学理工系進学希望に対応した生命科学コースを設置。</p> <p>○文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定校。</p> <p>○英語の授業改革や英語 4 技能を伸ばす取組を組織的に実施。</p>	<p>■4 年制大学を中心とした生徒の進路希望を実現する教育課程 →数学・理科の分野を広く・深く学び、自然科学分野への興味・関心を深める生命科学コースを設置 →SSH 指定校として、先進的な理数教育を実施するとともに、高大接続の在り方について大学との共同研究や、英語での口頭発表・ポスター発表、創造性、独創性を高める指導方法、教材の開発等の取組を実施</p> <p>■国際交流の推進 →ボストンへの生徒派遣、アデレード研修、台湾桃園市立陽明高級中学との交流など国際性を育むための取組を推進</p>

学校名	重点項目	学校の現状、特色等	重点項目を踏まえた特色化・魅力化の取組
米子西 高校	◆大学進学 ◆キャリア教育	○令和2年度から学校教育目標を「多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な地域を創造する人財の育成を図る」に変更。 ○高大接続改革を踏まえ、授業や考査等の質的改善及びポートフォリオ・教科面談の導入等による主体的に学習に取り組む生徒の育成を目指した教育を展開。 ○キャリア教育の基軸となる活動として、2年次生の「総合的な探究の時間」において「学問探究コース」と「地域課題改善コース」に分かれて探究的な活動を行う「みらいチャレンジ活動」を実施。	■4年制大学を中心とした生徒の進路希望を実現する教育課程 ■学校の特色や地域の実情を踏まえつつ、生徒が自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成するキャリア教育 →「みらいチャレンジ活動」等において、「ふるさと教育」を行うため、令和2年2月に米子市と『ふるさと教育』における連携に関する協定を締結
境高校	◆大学進学 ◆スポーツ・文化芸術活動	○進路に応じたクラス編成と選択科目により個性の伸長と才能の開花を目指す単位制高校。 ○昨年度から始めた探究活動「境考学」を中心にキャリア教育を推し進め、地域の課題に取り組み地域の将来を担う人材を育成。 ○全国上位の成績を修めるヨット部のほかハンドボール部、陸上部、吹奏楽部、美術部、写真部など多くの部活動が県代表として中国大会・全国大会に出場。 ○スポーツ、創作活動、集団遊び等を通じた小学生との交流事業「境高スクールプロジェクト」を実施。	■4年制大学を中心とした生徒の進路希望を実現する教育課程 ■全国大会・中国大会に出場する部活動を軸とした新たな特色・魅力づくり →外部講師・外部指導者による運動部活動の充実、主体的に目標に向かって取り組む生徒の育成

※重点項目について

本県では、各県立高等学校が重点的に取り組むべき項目を県教育委員会が指定（重点校指定）し、

予算を手厚く配分する等の支援をすることで、各校の魅力化・特色化をより一層推進するとともに教育施策等の実現を図っている。

高校普通科三つに再編案

「学際融合」「地域探究」

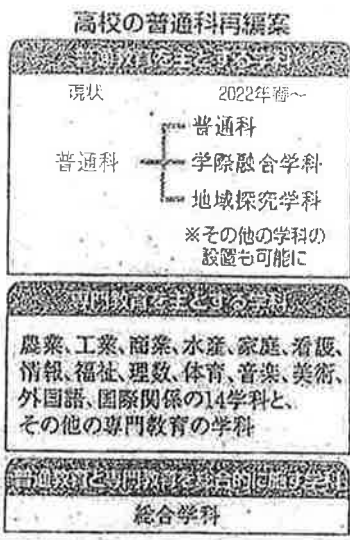
文部科学省が現在の高校普通科を再編し、早ければ2022年春にも普通科に加えて「学際融合学科」と「地域探究学科」（ともに仮称）の2学科を設ける案をまとめたことが15日、関係者への取材で分かった。全ての高校に、教育方針を示す「スクールポリシー」の策定を義務付ける案も検討。中教審の特別部会などで、両案の検討を進める。普通科の再編が実現すれば、1948年に新制高校が発足以降、初めてとなる。

スクールポリシー義務化も

高校には普通科の他、商業や工業など専門教育を担う専門学科、双方を合わせた総合学科があるが、約7割の生徒は普通科に在籍する。普通科の特色が乏しく、大学を目指す生徒だけでは、進学を目標にした画一的な指導をする普通科もあるなど、高校教育が地域の幅広いニーズに合っていないといった指摘が出

文部省は昨年夏、有識者会議を設置。議論を踏まえ、普通科の枠組みの中に、持続可能な開発目標（SDG）など現代的な課題に対応するため教科の枠を越えた学びに取り組み学際融合学科と、地域社会の課題に取り組み地域探究学科を設ける案をまとめた。学際融合学科には大学や

国際機関との連携体制を、地域探究学科には自治体や地元企業との協力体制や高校と地域をつなぐコーディネートなど要件とすることを検討している。公立高校は都道府県教育委員会などが所管しており、2学科の他に、教養などの判断で特色ある学科の設置も認める方向で協議している。普通科と専門学科や総合学科との役割分担を含め、議論を続ける。スクールポリシーに関しては、①どのような力を身に付ければ卒業を認めるか②どう教育課程を編成・実施し、学習内容を評価するか③どのような生徒を入学させるか④の3点のポリシー作りを求めることを検討している。



ミニクリオス

高校改革 1948年、戦後の新制高校が発足した際、高校設置基準で普通科と、商業や農業といった専門学科に分けられた。ほとんどの子どもが高校に進学するようになり、ニーズが多様化したことを踏まえ、94年に普通科と専門学科を合わせた総合学科を導入。2004年に設置基準が改正され、専門学科の中に理数、体育、国際関係などが新設された。学年の区切りなく、決められた単位を取れば卒業できる単位制高校も、88年から定時・通信制で、98年から全日制で設置されるようになった。

令和2年7月16日付

日本海新聞

1. 高等学校を取り巻く現状と課題認識

- ▶ 高等学校には多様な入学動機や進路希望、学習歴、背景を持つ生徒が在籍しており、多様な実情・ニーズに応じた学びの実現が必要。
- ▶ 生徒の学校生活への満足度や学習意欲は中学校段階に比べて低下しており、高等学校における教育活動を、高校生の学習意欲を喚起し、その能力を最大限に伸長するためのものへの転換することが急務。
- ▶ 大学入学や就職などの出口のみを目標とすることなく、多分野に関する理解や、新たなことを学び、挑戦する意欲を育むための学びが不可欠。
- ▶ 産業社会や社会システムの激変、少子化の進行等の社会経済の有り様を踏まえた高等学校の在り方の検討が必要。

2. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を通じて再認識された高等学校の役割・在り方

- ▶ 各教科の知識・技能の教授以外にも、生徒にとつて安全・安心な居場所を提供するという福祉的機能や、社会性・人間性を育むという社会的機能をも有するという高等学校の多面的な役割・価値を再認識。
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、生徒が長期間登校できない状況下において、ICTも最大限活用した学習保障の必要性が顕在化。
- ▶ 対面指導がICT活用かという二元論に陥ることなく、最適な組合せにより、多様な生徒を誰一人取り残すことのないよう、個別最適化された学びと、社会とつながる協働的・探究的な学びの実現が必要。

これらの前提を踏まえ、3.及び4.の方策を実施

個々の授業における個に応じた指導という側面に加え、生徒の興味・関心等に応じた学校選択や科目選択を可能・容易にするという側面からの個別最適化

3. 各学科・課程に共通して取り組むべき方策

◆20年後・30年後の社会像・地域像を見据えた高等学校教育の推進方策

- ▶ 将来社会を牽引する人材の育成のためには、国内外の大学や企業、地元自治体等の関係機関とも連携して学校外の教育資源も最大限活用した高度な学びを提供することが必要であり、また、多くの学校において高度な学びにアクセスすることを可能とするための学校間ネットワークを構築。
- ▶ 中山間地域や離島などの地域に立地する高等学校は、自宅から通学可能な唯一の高等学校として、多様な生徒のニーズに応えるための役割が求められることから、ICTも活用して複数校がそれぞれの強みを共有することにより、地理的制約を超えて多様かつ質の高い学びの機会を提供。
- ▶ 公立高等学校の配置を含めた在り方については、都道府県において、高等学校が持続的な地方創生の核としての機能をも有するという意識を持ちつつ、地域社会の関係機関と丁寧な意見交換を通じて、教育水準の維持・向上に向けて検討することが必要。その際、総合教育会議等を活用した首長部局との連携も有効。

◆スクール・ミッションの再定義/スクール・ポリシーの策定

- ▶ 各設置者が、各学校の存在意義や期待される社会的役割、目指すべき学校像をスクール・ミッションとして再定義。
- ▶ 各学校は、スクール・ミッションに基づき「卒業の認定に関する方針」「教育課程の編成及び実施に関する方針」「入学者の受入れに関する方針」の3つのスクール・ポリシーを策定・公表し、カリキュラム・マネジメントを通じて教育活動を一貫した体系的なものに再構成。

◆地域社会や高等教育機関等の関係機関との協働

- ▶ 各高等学校のスクール・ミッションや実情等に応じ、地方公共団体、高等教育機関、企業や経済団体、NPO法人や福祉機関等との連携を推進。例えば、地域を支援するために必要となる力の育成を目指す学校においては、地方公共団体等との協働体制であるコンソーシアムを構築し、地域を題材とした探究的な学びを提供。

4. 学科・課程の特質に応じた教育実践の充実強化

◆ 学科の特質に応じた教育実践の充実強化

普通科改革

- ▶ 高校生の約7割が在籍する普通科においても、一斉的・画一的な学びではなく、生徒の能力や興味・関心等を踏まえた学びを提供するという観点から、各校の特色・魅力化の取組に応じて、「普通教育を主とする学科」として普通科のほかに、下記のような学科を設置者の判断によって設置することを可能化。
 - SDGsの実現やSociety 5.0における現代的な諸課題への対応を図るために、学際科学的な学びに重点的に取り組む学科
…現代的な諸課題等に対応した領域横断的な教育を系統的に実施することや、高等教育機関や国際機関等との協働体制の構築を要件化
 - 地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、地域社会が抱える課題の解決に向けた学びに重点的に取り組む学科
…地域課題等をテーマとした探究的な学びを3年間系統的に実施することや、地元自治体・企業等とコンソーシアムを構築すること、高校と地域を繋ぐコーディネーターを配置することなどを要件化
 - その他普通教育として求められる教育内容であって特色・魅力ある教育を実現すると認められる学科

専門学科改革

- ▶ 経済団体等の産業界を核とし、地域の産官学が一体となって将来の地域産業界の在り方や高校段階での人材育成の在り方を検討するとともに、それらに基づく教育課程の開発・実践を推進。
- ▶ 最先端の職業教育を行うためには、施設・設備の充実が不可欠であり、設置者による計画的な整備や国・地方公共団体における財政的措置の充実が重要であるとともに、地元企業等の施設の活用等の様々な工夫による最先端の施設・設備に触れる機会の創出も有効。
- ▶ 総合学科においても、多様な科目開設を通じて主体的な学習を促す教育活動を更に推進するため、「産業社会と人間」を核としつつ、3年間の授業を系統的に実施することが必要。多様な科目開設を実現するために、ICTも活用して他校の科目を履修して単位認定する仕組みの活用や、外部人材の活用を推進。

◆ 定時制・通信課程での多様な学習ニーズに応じた取組の推進方策

- ▶ 制度創設時と異なり、勤労青年以外にも多様な生徒を受け入れてきた定時制・通信制課程の現状を踏まえ、多様な学習ニーズに応じてより一層きめ細かく対応できるよう、SC・SSW等の専門スタッフの充実や関係機関との連携を図るとともに、ICTを効果的に利活用した指導方法等の検討・支援。

◆ 高等学校通信教育の質保証方策

- ▶ 通信制高等学校で学ぶ全ての生徒が適切な教育環境の下で存分に学ぶことができるよう、点検調査等を通じて明らかとなった課題等を踏まえた質保証を徹底。
 - 教育課程の編成・実施の適正化
 - …各年度における添削指導・面接指導・試験の年間計画等を「通信教育実施計画」（仮称）として策定・明示することを義務付け。
 - …面接指導は少人数で行うことを基幹とすることや、集中スクーリングにおいて1日に実施する面接指導の時間を適切に定めること、多様なメディアを利用して行う学習の報告課題等に対する観点別学習状況の評価の実施、試験の実施時間・時期を適切に設定することなどを明確化。
 - サテライト施設の教育水準の確保
 - …実施校の責任下におけるサテライト施設の把握・管理、情報開示の徹底。面接指導等実施施設の共通の基準に関して実施校と同等の教育環境を確保。
 - 多様な生徒にきめ細かく対応するための指導体制の充実
 - …養護教諭・SC・SSW等の専門スタッフの充実や関係機関等との連携促進を図るとともに、きめ細かく指導・支援を実現するための教諭等の人数の明確化。
 - 主体的な学校運営改善の徹底
 - …法令に基づく学校評価の実施・公表の徹底とともに、「自己点検チェックシート」(仮称)に基づく自己点検の実施・公表。
 - …教員・生徒・教育課程・施設設備等に関する学校の基本情報の開示を義務付け、ICTを基盤とした先端技術の効果的な活用に向けた実証研究の実施。

他県の高校における先進的な取組事例

令和2年9月4日
高等学校課

○北海道浦河高校（ポイント：探究学習）

「総合的な学習の時間」が、進路学習中心で探究学習の要素が少ないプログラムになっており、生徒自身の思考力等の成長につながっていなかったことから、あらゆる教科学習の終着点に課題研究があることを可視化しようと各教科担当に単元の作成を依頼。教科学習と課題研究を関連付けることで、生徒は授業の目的への理解が深まり、教師も他教科との関連をより意識した授業づくりを行った。その結果、課題研究やボランティア活動を通して、積極的に学校外で活動する生徒が増え、生徒の進路目的も明確化された。

○仙台市立仙台工業高校（ポイント：生徒の向上心、有用感）

3年生が課題研究「テクノボランティア」として、地域企業と連携し、近隣の高齢者団地を訪問。生徒が取得した資格を活用し、電気スイッチの交換や照明の清掃などのボランティア活動を実施。資格の有用性を実感させるとともに上級資格への意欲を高めた。

○群馬県立桐生高校（ポイント：進路意識向上）

教育目標達成のために学校全体で指導のPDCAサイクルを回せるようSSH（スーパーサイエンスハイスクール）担当者や各学年の主任ら19人からなる「資質・能力育成部」を設置。週1回の会議で各学年の指導状況を共有。また、生徒会役員と生徒会担当の教師が「高校卒業までに身に付けたい資質・能力」をテーマに話し合い、生徒からは「企画力」「思いやり」「ユーモア力」など境地用途は異なる視点からの資質能力が挙げられた。

○石川県立野々市明倫高校（ポイント：進学実績の向上）

1・2年次での基礎学力の完成を目指し、どの生徒も学習内容をすべて理解できる授業を目指して指導の質の向上を図り、効率よく復習できるよう週末課題の問題を精選。また模試等の結果分析を強化し、学習内容の定着に不安がある生徒が多い分野・単元を洗い出し、特に課題が見られる教科科目では進路指導課から担当教師に手厚く解説して欲しい分野・単元を具体的に示しながら今後の指導を検討した。3年次6月からは、最難関国公立大学志望者を対象に、全校体制で記述・論述問題の添削指導を実施。進学実績が躍進するとともに全校体制で指導改善に取り組めるようになった。

○岐阜県立中津高校（ポイント：キャリア教育）

大学入試に向けた準備を始める生徒が多く、進路意識の涵養に課題があったことから、従前からの1・2年次の弁論大会を、小論文指導を中心とした取組から進路探究活動を中心とした取組に改編。特に1年次には、生徒が「自分は何に興味があるのか」というテーマとじっくり向き合えるようにした。また、生徒の視野を広げるため、旧中山道「馬籠宿」における通訳を始めとした、地域と連携して行う多様なボランティア活動を推進。加えて年8～9回、保護者を招いた勉強会を自獅子、大学入試や就職、校内の取組などの情報を共有。その結果、「自分ならではの体験」を語る生徒が増え、AO・推薦入試の合格率も向上。

○高知市立高知商業高校（主体的な進路意識の醸成）

4年制大学への進学を目指す生徒が増える中、希望進路に応じた進路指導に課題があった。そこで学校経営ビジョンや重点教育計画を策定し、学校が育成を目指す資質・能力を「市商（※）マネジメント力」として整理し、教師の目線合わせを行ったほか、国公立大学への進学を希望する3年生を対象とした対策講座を開設し、高い目標を抱く生徒同士が刺激し合える環境を整備。また特別活動を通して、「生徒にやればできる」という自信をつけさせ、高い目標に挑戦しようとする進路意識を醸成。これらの取組により自分の進みたい道を選択する生徒が目立つようになり、国公立大学進学者も増加した。 ※市商・・・校名の略称

○熊本県立熊本西高校（ポイント：外部連携、校務改革）

進路意識が希薄で、学習意欲が低い生徒の増加に加え、業務過多によって教師が生徒と向き合う時間が少なくなっていた。このため県内の私立大学や専門学校と連携し、同校の生徒向けの授業を受講する「西高アカデミックインターンシップ（N A I S）」を1年次に実施。また、一般社団法人・大学と包括連携協定を締結。大学の最先端施設の利用や、大学・企業が開催する口座への無料参加ができるようにした。また、教師の負担軽減を図るため業務の見直しを実施。事前指導や振り返りを徹底し、N A I Sの効果を高めることで生徒の進路意識や学習意欲が向上。加えて、教員も教材研究や生徒との面談の時間が持てるようになった。

【その他参考】N高等学校（通信制）

- ・学校法人角川ドワンゴ学園が設置し、2016年4月1日に開校。
- ・教育方針は、創造力を身につけるために、教養、思考力、実践力の三つを学ぶこと。
- ・学校への通学は年5日程度のスクーリングのみ。
- ・高卒資格取得のためのBasic Programではネットと通信制高校の制度を活用して、一般的な全日制高校と比べ短い拘束時間で高校卒業資格を得ることが可能。
- ・同校の目玉はプロフェッショナルによる将来へ繋がるAdvanced Program。任意で受講する選択授業であり、ネットで行うAdvanced Programでは生放送と教材がセットになった専用アプリを使用。
- ・N高のAdvanced Programは仲間と学べる特長的な機能として生授業、教材アプリ（N予備校アプリ）、フォーラム機能がある。この三つの機能が一体となりオリジナルコンテンツをより楽しく、より深く学ぶことができる。
- ・一流の講師のもと、大学受験、プログラミング、文芸小説、外国語、イラストレーター、コミック等様々なジャンルではN予備校を使用して生放送とオリジナル教材で将来への学習ができる。
- ・また、実際に体験できるプログラムとして、海外大学国際教育プログラム(留学)や日本各地で、農業・漁業・伝統技術などさまざまな職業をリアルに体験する職業体験、地域や身の回りの課題や自身が気になることをテーマに自らプロジェクトを立ち上げ、課題解決に取り組む長期学習プロジェクトであるN高マイプロジェクトなども用意されている。

【出典】ベネッセ総合研究所「View21」、N高校ホームページ

普通科における特色あるコースの例

令和2年度9月4日
高等学校課

都道府県名等	学校名	設置学科・コース	募集定員	概要
秋田県	男鹿海洋高校	普通科	35	・現在の普通高校と水産高校を統合 ・普通科に加え、水産科、食品科学科を設置
		海洋科	35	
		食品科学科	35	
	横手西陵学院中学高校	総合技術科	120	・併設型県立中高一貫教育校
普通科		80	・普通科に加え、工業系の総合技術科を設置	
神奈川県	白山高校	国際教養コース	39	・既設の国際教養コースを国際教養コースと美術コースへ改編 ・一般コースの生徒も専門コースの科目を選択可能
		美術コース	39	
	横浜南陵高校	健康福祉コース	40	・横浜日野高校普通科3学級と野庭高校普通科3学級が統合し、6学級の普通科、うち1学級が健康福祉コース ・一般コースの生徒も専門コースの科目を選択可能
	西湘高校	自然科学系コース	40	既設の普通科に自然科学系の専門コースを設置
富山県	呉羽高校	音楽コース	30	音楽コースは、普通科の中に第1学年より設置されている音楽理論やソルフェージュ、声楽・器楽などの音楽科目の単位数を多くし、音楽系の進路希望者に対応
石川県	金沢伏見高校	普通科	320	・自然科学コース、国際文化コース、人間福祉コース、普通科コースの設置 ・教科「福祉」「国際」「環境」「情報」「商業」等に関する科目の開設
	金沢辰巳丘高校	普通科	320	・外国語コース（英語専攻、中国語専攻）、芸術コース（音楽専攻、美術専攻）、普通科コースの設置 ・第2外国語（ドイツ語、フランス語、ハンガール、ロシア語）の選択履修 ・音楽専攻（ピアノ、声楽、弦楽器、管楽器） ・美術専攻（日本画、油絵、デザイン、彫刻）
	中島高校	演劇コース	40	・演劇を通じた文化・歴史の学習、コミュニケーション能力の育成 ・演劇科目「舞踊」「演劇表現」「ダンス」などの演劇科目の開設
広島県	可部高校	国際コミュニケーションコース	40	文科系科目を中心としたカリキュラムを設定し、「読む」「書く」「聞く」「話す」の基礎・基本の徹底を図る
	市立基町高校	創造表現コース	40	普通科のコースとして、各教科の力も重視しながら、将来、専門教育（美術分野）を受けるための基盤を養成

都道府県名等	学校名	設置学科・コース	募集定員	概要
高知県	岡豊高校	芸術コース	40	芸術に関する専門的な学習をとおし、創造的な表現力や感性を養い、必要な知識や技術を習得し、個性の伸長を目指す
	四万十高校	自然環境コース	40	四万十川の自然やふるさとの文化を中心に、人と自然に優しい人材を育成また、自然や環境の保護に関する知識や技術を体験的に養い、自ら調べ、考え、行動できる人材の育成を目指す
福岡県	黒木高校	福祉・看護コース	40	・看護に関する基礎的な科目を履修し、卒業後、看護関係の専修学校等へ進学を希望する者に対応 ・介護福祉士の国家試験受験資格取得
	嘉穂高校	武道・日本文化コース	40	武道や日本の歴史・古典の探求を通して、日本文化とその精神を学び、国際社会の中で真に信頼される人材を育成
熊本県	南関高校	美術工芸コース	20	小岱焼きの発祥の地としての伝統や、竹工芸・紙工芸・絵画など、美術工芸に関する環境、特色を生かし、創造力・個性を育成
	東稜高校	国際コース	40	文科系科目に重点をおいた学習を進め、特に英語教育の中では、ヒアリング・会話を重視しており、近隣諸国語（中国語・韓国語）の学習を織り込んで、国際化に対応できる人材を育成
	南関高校	ヒューマンコミュニケーションコース	20	手話や点字、ボランティア活動等の学習を通して、コミュニケーション能力の育成を図り、高齢化・国際化の時代に対応できる奉仕の精神に満ちた人材を育成
	市立必由館高校	服飾デザインコース	40	服飾デザインの基礎、発想と表現方法に関する知識と技能を習得し、服飾を創造的にデザインする能力と態度、色彩に関する感性を育成
鹿児島県	松陽高校	普通科	240	・2年から文科、理科、体育・書道・英語の3類型体育（体育理論、体操、スポーツ1・2・3、ダンス、野外活動から計9単位） ・書道（書道概論、漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書から計9単位） ・英語（外国事情、英語一般、LL演習から9単位）
	屋久島高校	環境コース	80	屋久島の自然、環境科学環境と生活、環境と情報、野外実習を設定

出典：文部科学省「高等学校教育の改革に関する推進状況」